

2歳以下は泡状歯磨剤も



の三つの場面に分けて考えることができます。

0～2歳児ならば、うがい
ができないことに気をつける
必要があります。そのためプ
ロフェッショナルケアを除い
て、ホームケアで使用するフ
ッ化物配合の歯磨剤はフッ化
物濃度が500ppmのものや、
安全面からフォームタイプ
(泡状)をお勧めします。

プロフェッショナルケアと
しては、乳歯が生え始める1
歳ごろから永久歯に生えかわ
る13歳ごろまでの間、定期的
(年2～4回)にフッ化物塗布
を行うことをお勧めします。

コミュニケーションの例とし
ては、本県では幼稚園から中
学校までフッ化物洗口が実施
されており、小学校の実施率
は100%です。雲仙市では、
乳幼児フッ化物塗布事業とし
て本年度は2014年4月2
日から18年4月1日生まれの
乳幼児を対象に、1年に2回
までフッ化物塗布への助成が
行われています。良い機会で
すので歯科医院に相談してみ
てはいかがでしょうか。

質問をどうぞ

歯と口の健康に関する質問を
受け付けます。県歯科医師会の
先生方が回答します(直接本人
に回答はしません)。症状など
を分かりやすくまとめ、住所、
氏名、年齢、職業、電話番号を
明記し、〒805218601、
長崎市茂里町3の1、長崎新聞
社生活文化部「お口の相談室」
係に送ってください。県歯科医
師会のホームページは「802
0ながさき」で検索できますの
で参考にしてください。

フッ化物洗口、塗布いつから

【問い】先日、1歳6カ月健診が行われた時に、子どものむし歯予防には歯みがきだけではなく、フッ素洗口やフッ素塗布が良いと聞きました。いつ頃から始めれば良いのか、どのような方法があるのか教えてください。(雲仙市、30歳女性)

【答え】歯は生えてから2
～3年が、むし歯になりやす
いとされています。フッ化物
(フッ素)は、歯とプラーク
(歯垢)にそれぞれ作用する
ことでむし歯を予防します。
歯に対しては歯の質の強
化、再石灰化(初期むし歯によ
り破壊された歯の表層が再び
元の構造に戻ること)の促進、
プラークに対しては歯を溶か
す酸の産生を抑制します。歯
が生えてすぐはフッ化物塗布
による歯の表層のフッ化物の
取り込みが大きいいため、フッ
化物塗布は効果的です。
フッ化物の応用にはフッ化
物塗布とフッ化物洗口の方法
があり、自宅で行うホームケ
ア、歯科医院などで行う高濃
度のフッ化物を利用するプロ
フェッショナルケア、学校や
職場で行うコミュニケーション

回答者



萩尾 美樹
雲仙市小浜町
萩尾歯科医院院長